キャラクター名

シーニィ

プレイヤー名

ポジション	ソロリティ	**享年**	13
メインクラス	ロマネスク	**暗示**	罪人
サブクラス	ゴシック	**寵愛点**	0

初期配置	煉獄
最大行動値	10

能力値	クラス	修正	合計
武装	0	0	0
変異	1	3	4
改造	3	0	3

記憶のカケラ	内容
愛犬	
土の匂い	
手を繋ぐ	誰かと手をつないでいた。相手は分からないけれど、確かに手の中にあった安心感。手に触れることで安心を得られるなら、せめて今いる仲間とも手をつないでいたい。冷たい手でも温もりは感じられるから。
裏切り	みんなに裏切られてからだに、相棒に手をとってもらって、目をとじてくれて、鼓動してくれて、なんだって手をとってくれてた。なのに、なのに、なのに、みんなは裏切った。信じたのに、裏切られてしまった。信じていたのに。何でみんな裏切るの。裏切られてみれば自分も裏切ってたんだろう。絶対に許さない。あぁ一でもどうしてみんな裏切ったんだろう。
恋	セオという少年がいた。宝石商組の1番上に居た彼は皆に尊敬されていた。彼と一緒にいる時間が貴方は大好きだった。そう。恋をしていたのだ。この気持ちを彼に伝えたかは覚えていない。
バースデー	私の誕生日で、お祝を始めようとしていた。お父さん、母パパ、お姉様、妹パパ、お手伝いさんおじさんたちと食べている。「明けまして、メッカリ!」と言。 ドア開けて入ってくれた。その時、メッカリ!と言ってくれた。 ケッカリ!と言ってくれた。 ケッカリ!と言ってくれた。 ケ